

令和3年度全国学力・学習状況調査 の結果について

全国学力・学習状況調査について

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

令和3年5月27日（木）

3 調査の対象

- ・ 小学校6年生：国語・算数・質問紙調査
- ・ 中学校3年生：国語・数学・質問紙調査

4 調査結果について

- ・ 個人票が学校から児童生徒に提供される



令和3年11月
泉南市教育委員会

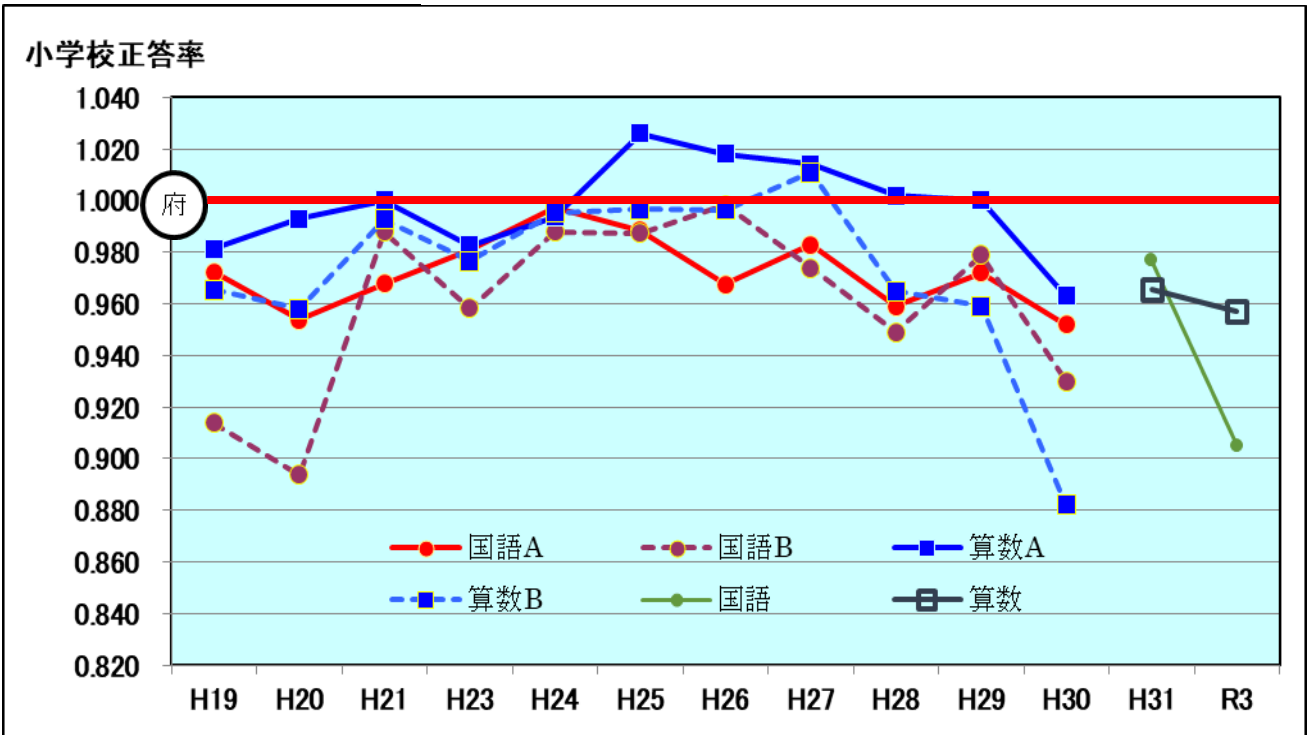
小学校の結果の概要

1. 経年変化の一覧表(H19～R3) 対象学年は第6学年(平成23年度、令和2年度においては悉皆調査は実施されず)

国語	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査															
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30		H31		R3	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	77.2	53.0	59.8	42.0	66.1	48.8	86.4	62.2	72.9	64.7	60.5	47.3	68.4	52.5	66.5	61.1	68.4	52.6	70.0	53.3	65.0	48.8	58.6	57		
対府比	0.972	0.914	0.954	0.894	0.968	0.988	0.981	0.958	0.997	0.988	0.989	0.987	0.967	0.998	0.983	0.974	0.959	0.949	0.972	0.979	0.952	0.930	0.977	0.905		
対全国比	0.945	0.855	0.914	0.832	0.946	0.966					0.965	0.957	0.938	0.946	0.950	0.934	0.938	0.910	0.938	0.923	0.918	0.887	0.918	0.881		
大阪府	79.4	58.0	62.7	47.0	68.3	49.4	88.1	64.9	73.1	65.5	61.2	47.9	70.7	52.6	67.6	62.7	71.3	55.4	72.0	54.4	68.3	52.5	60.0	63		
全国	81.7	62.0	65.4	50.5	69.9	50.5	-	-	-	-	62.7	49.4	72.9	55.5	70	65.4	72.9	57.8	74.6	57.7	70.8	55.0	63.8	64.7		

算数	全国学力調査				大阪府学力調査				全国学力調査																	
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30		H31		R3	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	79.0	58.6	70.7	47.8	78.4	53.4	62.3	50.0	63.2	42.7	79.1	57.1	78.7	56.1	75.9	44.6	77.1	44.2	78.0	42.7	60.7	45.0	64.3	67		
対府比	0.981	0.965	0.993	0.958	1.000	0.993	0.983	0.977	0.994	0.995	1.026	0.997	1.018	0.996	1.014	1.011	1.002	0.965	1.000	0.959	0.963	0.882	0.965	0.957		
対全国比	0.962	0.921	0.979	0.926	0.996	0.974					1.025	0.978	1.008	0.964	1.009	0.991	0.993	0.936	0.992	0.922	0.956	0.873	0.965	0.954		
大阪府	80.5	60.7	71.2	49.9	78.4	53.8	63.4	51.2	63.6	42.9	77.1	57.3	77.3	56.3	74.8	44.1	76.9	45.8	78.0	44.5	63.0	51.0	66.6	70		
全国	82.1	63.6	72.2	51.6	78.7	54.8	-	-	-	-	77.2	58.4	78.1	58.2	75.2	45	77.6	47.2	78.6	46.3	63.5	51.5	66.6	70.2		

2. 経年変化のグラフ(H19～R3) 折れ線グラフは、大阪府の平均正答率を「1」としたときの泉南市の平均正答率の推移(平成31年度からA問題とB問題を一体的に問う問題に変更)



3. 成果・課題のあった特徴的な設問の結果 ()内は全国との差

国語	<p>課題① 面ファスナーに関する「資料」を読み、面ファスナーが国際宇宙ステーションの中で、どのように使われているのかをまとめて書く設問の正答率 19.0% (-10.7)</p> <p>課題② 【文章の下書き】の中の一部ウを、漢字を使って書き直す(つみ重ね) (-11.6)</p>
算数	<p>成果 分速 540mのバスが 2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く設問の正答率 85.3% (+0.2)</p> <p>課題 8人に 4 Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く設問の正答率 46.3% (-9.2)</p>

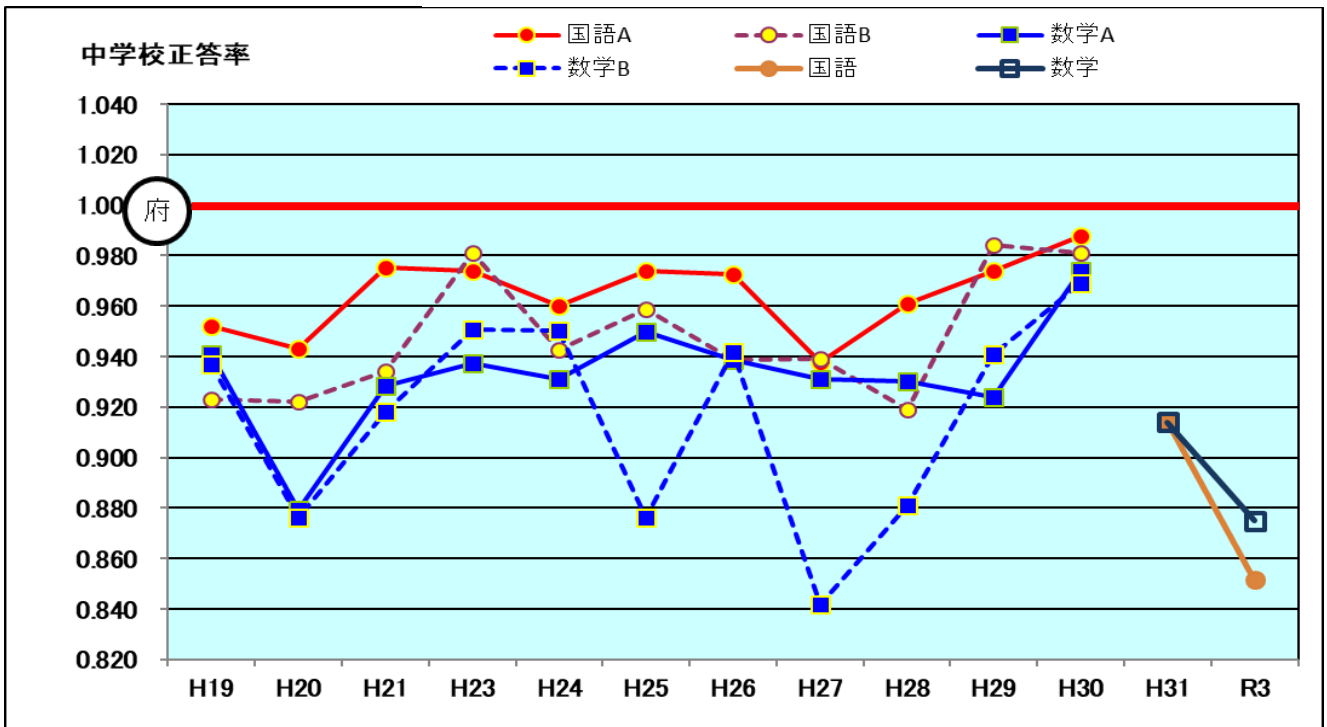
中学校の結果の概要

1. 経年変化の一覧表(H19～R3) 対象学年は第3学年(平成23年度、令和2年度においては悉皆調査は実施されず)

国語	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査													
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30		H31	R3
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題		
泉南市	75.4	60.0	66.5	50.9	70.9	63.8	67.2	52.2	62.5	44.6	71.4	60.4	74.9	44.3	69.8	60.9	70.7	58.2	73.4	67.7	73.8	57.8	64.0	55
対府比	0.952	0.923	0.943	0.922	0.975	0.934	0.974	0.981	0.960	0.943	0.974	0.959	0.973	0.939	0.938	0.939	0.961	0.919	0.974	0.984	0.988	0.981	0.914	0.887
対全国比	0.924	0.833	0.904	0.837	0.921	0.856					0.935	0.896	0.943	0.869	0.920	0.925	0.935	0.875	0.947	0.937	0.972	0.946	0.879	0.851
大阪府	79.2	65.0	70.5	55.2	72.7	68.3	69.0	53.2	65.1	47.3	73.3	63.0	77.0	47.2	74.4	64.8	73.5	63.3	75.3	68.8	74.7	58.9	70.0	62
全国	81.6	72.0	73.6	60.8	77.0	74.5	-	-	-	-	76.4	67.4	79.4	51.0	75.8	65.8	75.6	66.5	77.5	72.2	75.9	61.1	72.8	64.6

数学	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査													
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30		H31	R3
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題		
泉南市	65.3	51.8	53.2	39.6	55.6	48.2	58.2	36.8	61.0	38.4	58.6	34.0	61	53.6	59.9	34.9	57.4	38.0	58.8	43.3	63.6	44.3	53.0	49
対府比	0.941	0.937	0.879	0.876	0.928	0.918	0.937	0.951	0.931	0.950	0.950	0.876	0.938	0.942	0.931	0.842	0.930	0.881	0.924	0.941	0.974	0.969	0.914	0.875
対全国比	0.908	0.855	0.843	0.805	0.887	0.847					0.920	0.819	0.905	0.896	0.930	0.838	0.922	0.861	0.908	0.902	0.962	0.941	0.886	0.857
大阪府	69.4	55.3	60.5	45.2	59.9	52.5	62.1	38.7	65.5	40.4	61.7	38.8	65.0	56.9	64.3	41.4	61.7	43.1	63.6	46.0	65.3	45.7	58.0	56
全国	71.9	60.6	63.1	49.2	62.7	56.9	-	-	-	-	63.7	41.5	67.4	59.8	64.4	41.6	62.2	44.1	64.7	48.0	66.1	47.1	59.8	57.2

2. 経年変化のグラフ(H19～R3) 折れ線グラフは、大阪府の平均正答率を「1」としたときの泉南市の平均正答率の推移(平成31年度からA問題とB問題を一体的に問う問題に変更)



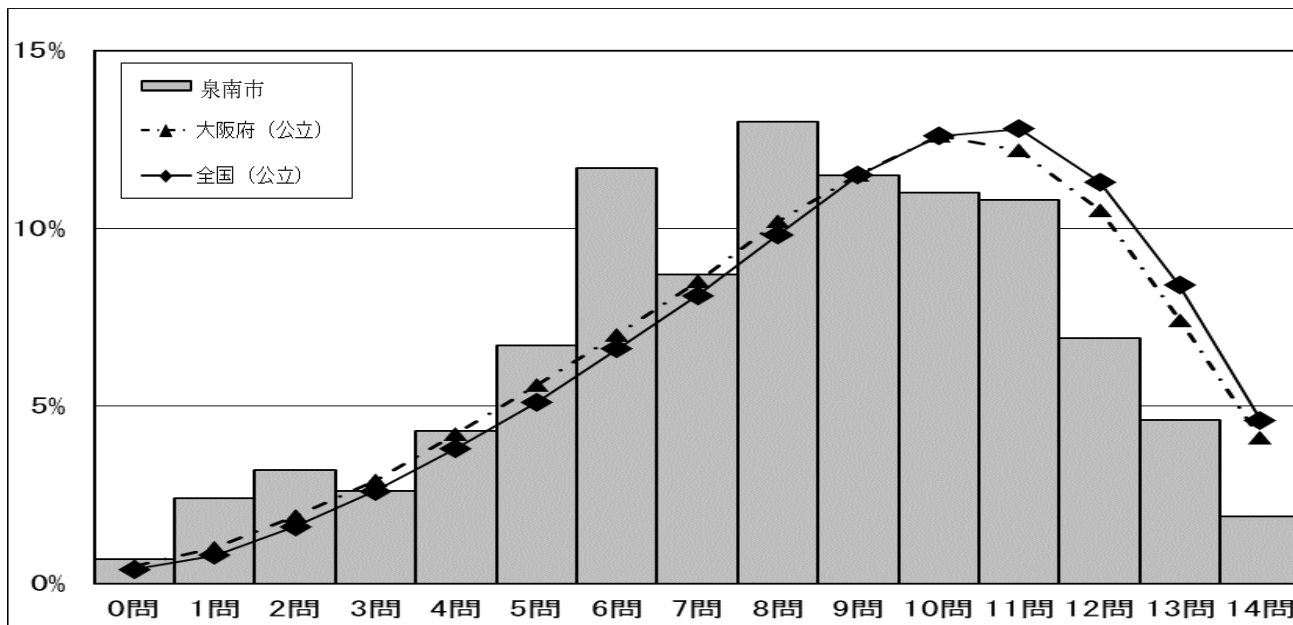
3. 成果・課題のあった特徴的な設問の結果 ()内は全国との差

国語	<p>成果 文脈に即して漢字(伸ばして)を正しく読む設問の正答率 96.3% (-1.2)</p> <p>課題 相手や場に応じて敬語を使う、「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する設問の正答率 24.6% (-15.7)</p>
数学	<p>成果 反復横とびの記録の中央値を求める設問の正答率 84.5% (同値)</p> <p>課題 ノート1冊をX円として、ノート2冊と筆箱を買ったときの代金とノート4冊とシャープペンシルを買ったときの代金が等しくなる方程式をつくる設問の正答率 57.7% (-13.6)</p>

小学校 国語

○平均正答率は57%で、全国や大阪府の平均を6ポイント近く下回っている。正答数10問以上の割合が低く、8問以下の割合が高いことから全体的に正答率が低い。依然として、「書くこと」「読むこと」について課題がみられる。また、基本的な漢字を文の中で正しく使うことに対して課題が見られた。

1. 正答数分布



2. 分類・区分集計結果

○・・・対府比を0.1ポイント以上下回るもの

分類	区分	設問数	平均正答率 (%)			対府比
			本市	大阪府	全国	
全体			57	63	64.7	0.905
学習指導要領の内容	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	59.8	67.4	68.3	0.887
	(2) 情報の扱い方に関する事項	0				
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	0				
	A 話すこと・聞くこと	3	74.8	76.7	77.8	0.975
	B 書くこと	2	52.4	57.3	60.7	0.914
	C 読むこと	3	38.5	45.2	47.2	0.852
評価の観点	知識・技能	6	59.8	67.4	68.3	0.887
	思考・判断・表現	8	55.6	60.0	62.1	0.927
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	66.5	70.4	71.7	0.945
	短答式	3	61.2	69.7	70.6	0.878
	記述式	3	29.4	37.4	40.2	0.786

(考察)

「話すこと・聞くこと」に関する問題に対しては、全国や府との差は小さく、同様の傾向を示している。目的に応じて、スピーチの構成を考えたり、資料を用いたり、話したりすることを問われる課題に対してはできている。

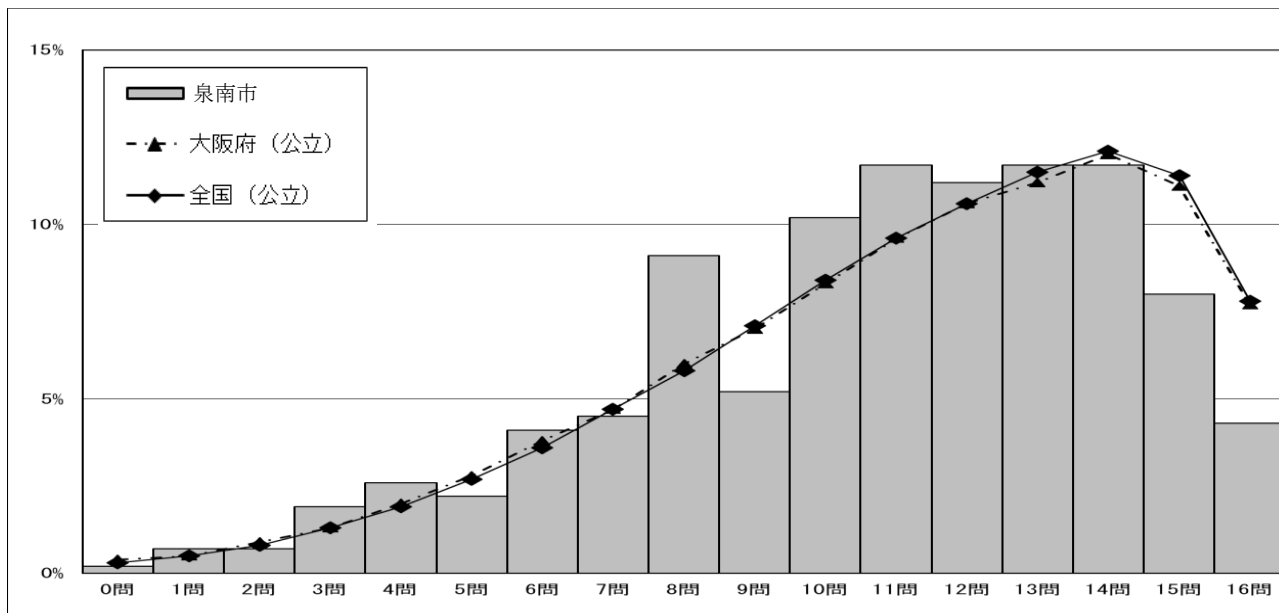
一方、これまでも課題となっている「書くこと」「読むこと」の領域では、依然として課題が見られる。解答類型としては、求められている条件のどれか一部が抜け落ちて回答している割合が全国や府に比べ、高い傾向がある。また、言葉に関する事項の「知識・技能」には課題が見られ、例えば、漢字を文の中で正しく使うことや、文の中における主語と述語の関係を捉える問題においては、府の正答率との差が大きい。

小学校 算数

○平均正答率は 67%で、全国や大阪府との比較では約 3 ポイント下回っている。正答数が 8~11 問の児童が全国や府よりも多い割合がみられる。

記述式問題については、依然として課題はあるが、無解答率は全国や府に比べ低く、問題を最後まで解こうとする意欲はみられる。

1. 正答数分布



2. 分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	平均正答率 (%)			対府比
			本市	大阪府	全国	
全体			67	70	70.2	0.957
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	58.8	62.7	63.1	0.938
	B 図形	3	54.6	56.7	57.9	0.963
	C 測定	3	73.2	74.5	74.8	0.983
	C 変化と関係	3	74.4	75.7	75.9	0.983
	D データの活用	5	73.0	75.7	76.0	0.964
評価の観点	知識・技能	9	71.7	73.6	74.1	0.974
	思考・判断・表現	7	61.3	64.6	65.1	0.949
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	6	74.4	75.9	76.0	0.980
	短答式	6	71.9	74.8	75.8	0.961
	記述式	4	49.1	52.7	53.0	0.932

(考察)

「変化と関係」の領域において、「速さと道のりを基に時間を求める」問題では、全国や府よりも高い正答率であった。

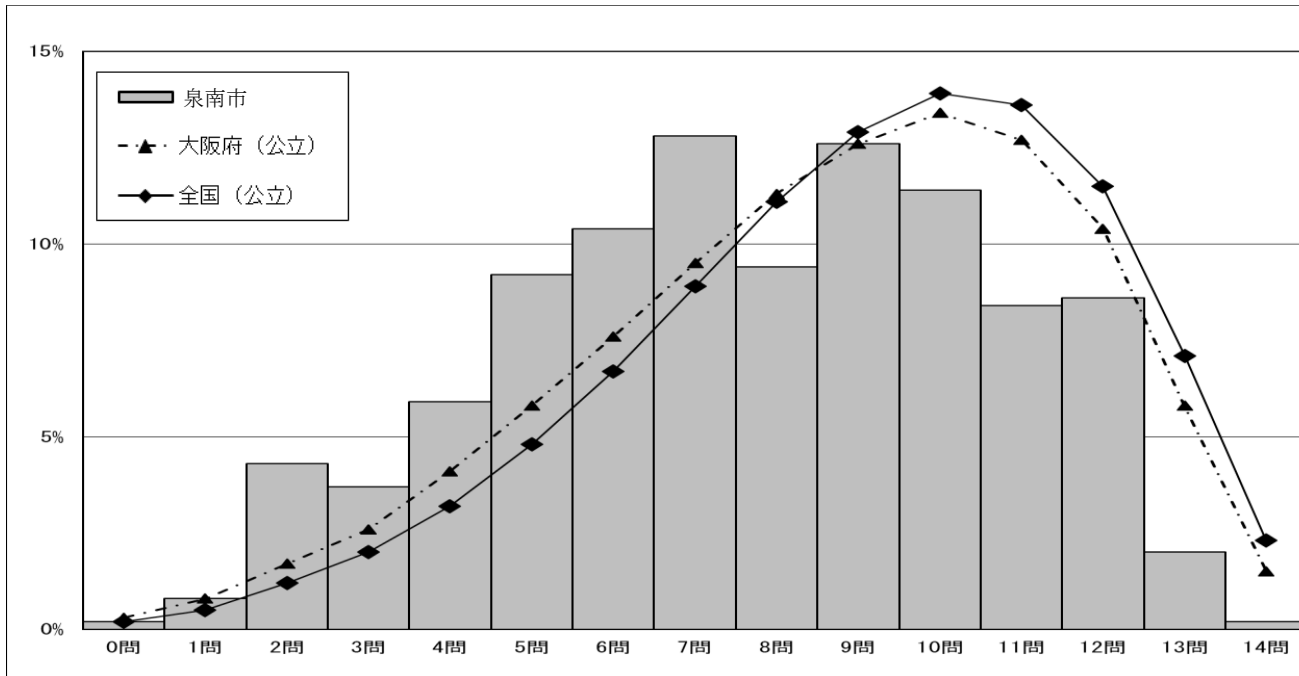
図形の領域においては、数年の傾向から改善はみられるものの、依然と課題であり、三角形の面積を表す式を選ぶ問題（図形の特徴から底辺と高さを見つけ、正しい式を選ぶ問題）においては、50%未満の正答率であった。

記述により答える問題については、依然として課題が見られるが、無解答率は、全国や府に比べ低く、問題を最後まで解こうとする意欲はみられる。

中学校 国語

○平均正答率は55%で、全国や大阪府から約8ポイント近く下回っている。正答数10問以上の割合が低く、7問以下の割合が高いことから全体的に正答率が低い。どの領域にも課題があるが、今回の調査では、文学的な文章（「吾輩は猫である」）を「読むこと」の領域に課題が大きく見られた。

1. 正答数分布



2. 分類・区分集計結果

○・・・対府比を0.1ポイント以上下回るもの

分類	区分	設問数	平均正答率(%)			対府比
			本市	大阪府	全国	
全体		14	55	62	64.6	0.887
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	70.5	76.2	79.8	0.925
	書くこと	3	47.5	54.1	57.1	0.878
	読むこと	4	37.9	45.4	48.5	0.835
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	66.1	73.8	75.1	0.896
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	44.9	51.5	56.0	0.872
	話す・聞く能力	3	70.5	76.2	79.8	0.925
	書く能力	3	47.5	54.1	57.1	0.878
	読む能力	4	37.9	45.4	48.5	0.835
	言語についての知識・理解・技能	4	66.1	73.8	75.1	0.896
問題形式	選択式	6	55.1	61.7	63.9	0.893
	短答式	4	64.8	73.0	74.4	0.888
	記述式	4	44.9	51.5	56.0	0.872

(考察)

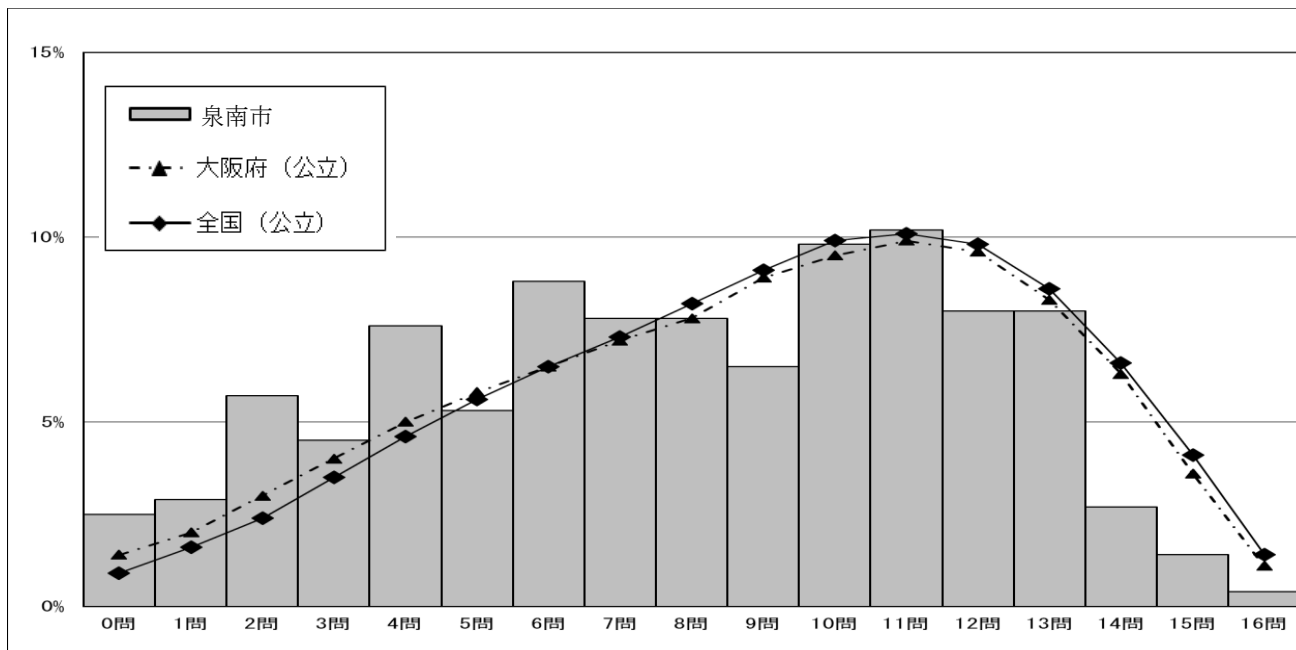
「話すこと・聞くこと」の領域では、話し合いでの発言の意図を問う設問は相当数の生徒が答えることができている。また、漢字を正しく読む設問においても相当数の生徒が答えることができている。

しかし、「読むこと」「書くこと」の領域では、中でも、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の持った考えを書くことは大きな課題が見られた。このほか、記述で回答する設問では、条件に合わせて書くことができていないなどの課題もみられる。

中学校 数学

平均正答率は49%で、全国や大阪府から約7~8ポイント下回っている。正答数12問以上の割合が低く、6問以下の割合が高いことから全体的に正答率が低くなっている。どの領域にも課題があるが、特に「図形」の領域に課題が大きい。また、記述式問題において。

1. 正答数分布



2. 分類・区分集計結果

○ …… 対府比を0.1ポイント以上下回るもの

分類	区分	設問数	平均正答率 (%)			対府比
			本市	大阪府	全国	
全体		16	49	56	57.2	0.875
学習指導要領の領域	数と式	5	55.4	63.6	64.9	0.871
	図形	4	43.0	49.9	51.4	0.862
	関数	3	49.5	54.7	56.4	0.905
	資料の活用	4	47.8	51.7	53.8	0.925
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	7	33.4	39.6	41.1	0.843
	数学的な技能	3	69.7	76.7	77.7	0.909
	数量や図形などについての知識・理解	6	57.6	63.6	65.6	0.906
問題形式	選択式	2	47.8	50.7	52.4	0.943
	短答式	9	61.8	68.8	70.5	0.898
	記述式	5	27.4	33.6	35.0	0.815

(考察)

「資料の活用」の領域で、課題はあるものの、反復横とびの記録の中央値を求める設問やヒストグラムから階級の度数を読み取る設問は相当数の生徒が正答しており、知識や技能がおおむね理解できている。

一方で、「数学的な見方や考え方」に関する問題やすべての領域で「記述式」の問題に対して正答率が低い。このことから、言語能力の育成とともに基礎的・基本的な言葉等の知識・理解を深め、文章を読解し、論理的に自分の考えを書くなどの言語活動を積極的に推進していく必要があると考える。

生活習慣や意識に関する調査(児童生徒質問紙調査)の結果

質問事項	小学校			中学校		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
自分には、よいところがある	70.7	74.3	76.9	74.3	72.5	76.2
将来の夢や目標を持っている	79.9	78.5	80.3	63.1	65.7	68.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	97.3	96.6	96.8	93.5	95.4	95.9
人の役に立つ人間になりたいと思う	96.1	95.0	95.5	94.0	94.4	95.0
朝食を毎日食べている	92.6	93.6	94.9	89.7	90.3	92.8
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	79.7	79.2	81.2	77.3	78.0	79.8
毎日、同じくらいの時刻に起きている	90.8	89.1	90.4	89.1	89.3	92.7
家で、自分で計画を立てて勉強する	73.1	66.8	74.0	60.0	60.3	63.5
学校の授業時間以外に、1時間以上勉強する(月～金 塾・家庭教師含む)	78.6	78.6	87.0	57.4	65.5	77.6
学校の授業時間以外に、1時間以上読書する(月～金)	10.4	16.6	18.2	13.9	12.2	14.1
地域の行事に参加している	43.1	48.8	58.1	36.5	34.2	43.7
国語の授業の内容はよく分かる	83.8	84.5	84.2	81.8	80.3	80.1
算数(数学)の授業の内容はよく分かる	89.1	85.6	84.6	64.9	74.2	74.6
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う	79.5	75.3	78.2	81.7	78.2	81.0
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う	64.5	61.0	63.5	67.6	59.5	62.0
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う	78.1	75.4	78.8	73.7	73.1	77.8
前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器を一週間に1回以上使用している。	49.5	41.6	40.1	56.4	33.9	33.4
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた。	63.3	54.1	55.2	63.1	61.7	62.8
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を進めた。	59.8	59.3	64.8	31.4	34.8	37.6
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送れた。	56.8	57.6	63.1	43.1	43.8	48.4

「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した児童生徒の割合(%)

令和3年度学力向上の各種施策

➤ ICT環境の充実

- ①小中学校に1人1台端末のタブレットを配布し、国のGIGAスクール構想に沿って、ICTを活用した魅力ある授業を推進。
- ②各教室に大型モニタ（65インチ）を設置。
- ③各学校の教室に無線LANを整備。
- ④GIGAスクールサポーターを導入。



➤ 教職員の授業力の向上

- ①ICTを活用した授業研究・授業づくり研究において、和歌山大学大学院教育学研究科の豊田充崇教授を講師に招聘。「個別最適な学び」「協働的な学び」の実践と効果的なICTの活用推進。
- ②「子どもの声を活かす授業づくり」研修を実施し、教職員の授業等における子どもの声を聴く力（ファシリテーション力）の向上を図っている。
- ③経験年数の少ない若手教員の育成（市教育委員会事務局指導主事による学校訪問）
- ④授業づくり、教師としての心構え、児童生徒や保護者とのかかわり方、学級経営のポイント等に関するアドバイス（学校教育アドバイザーによる学校訪問）
- ⑤オンラインを活用した各種研修の実施

➤ 小学校における専科指導教員の配置

- ①配置のねらい：中学校教員が小学校で教科指導を行うことで、小中連携を一層推進し、子どもたちの確かな学力を育む。
- ②泉南中学校区に外国語指導教員を配置。小学校では、専科指導（理科・英語・家庭科・音楽）の加配教員を配置し、児童の学習に対する興味関心を高める学習を展開。



➤ 教職員の業務環境の改善(働き方改革)

- ①校務用ノートパソコンを全教職員数分を整備した。
- ②Google Workspace（グループウェア）を導入し、全教職員と教育委員会職員の情報共有・伝達を向上させた。



➤ 少人数指導・習熟度別指導の実施(個に応じた指導)

- ①学校の実態に合わせて、加配教員を中心にした少人数指導・習熟度別指導を実施。「個に応じたきめ細かな指導」を推進。
- ②教科は、国語、算数・数学、英語。
- ③体制として、単元や指導内容に応じて、均等分割、習熟度別、課題別、チームティーチング等を実施。



➤ 大阪府学力向上事業の実施

①学力向上「確かな学びを育む学校づくり推進校（TM校）」

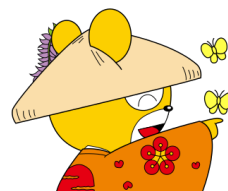
〔一丘中学校、一丘小学校で実施〕

②ICT教育「スマートスクール実現モデル校（スマスク校）」

〔砂川小学校で実施〕

*「学びに向かう力の育成」に向け、組織的・計画的に取り組み、授業づくりや学習用端末を日常的、効果的、組織的に活用する取組を進めている。

*泉南市全体の学力向上をめざして、旗艦校としての取組実践を泉南市全体で共有。



➤ 国際化教育の推進

①JETプログラム、ALT(外国語指導助手)等を

全小中学校に配置し、小中学校の英語教育の充実を図る。

②英語検定試験を市内会場で実施。



➤ 小中一貫教育の推進

①学力向上担当者による実践報告と中学校区等での実践交流
(学力調査から見える課題と成果の共有を図る)

②6年生児童(新中学1年生)へ春休みの宿題実施

(4月からの新たな学習に備えた復習・点検を行う)



➤ 読書活動の推進

①市立図書館との連携により、学校図書を増強を図り、読書環境の改善を行った。

②市教委は、2年目教員が行う社会体験研修について、「図書館の地域における役割とその機能」と「子どもへの読み聞かせにおけるスキル向上」について企画し、教員の資質能力の向上に努めた。

➤ デジタル教師用指導書の新規導入

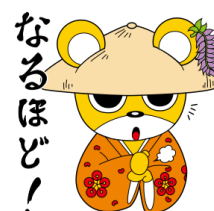
授業において、教科書の内容を大型モニターに投影し、魅力ある授業を展開。

➤ 児童生徒用デジタル教科書の活用

タブレットで使用するデジタル教科書を各小中学校で分担し活用している。(国事業)

➤ 小学校外国語授業教師用マニュアル「SENNAN2020」の作成と活用

JET-ALTを活用した授業のために日本人の教員とALTが協力して授業が行える教材を作成し、配布した。



●各学校の取組

➤ 各校に応じた学力向上スタンダードの確立と学校活性化計画の作成

各校の課題に沿った形で〇〇小、〇〇中学校学力向上スタンダードを確立し、全職員がベクトルを揃え、課題解決のために取り組んでいる。また、それらが形骸化しないように学校活性化計画を作成し、「学力向上スタンダード」の確実な履行が行えるよう管理職及び校内の学力向上担当者が中心となり進捗管理及び調整を行っている。

➤ 「めあて・課題」を明確にした授業改善の徹底

授業の「めあて・課題」を目に見える形で示し、授業の終わりには、それが達成できたかどうかを振り返る時間を確保する。「何を学ぶか、そして何ができるようになったのか、どんなことをできるようにしていきたいのか」を明確にし、一人ひとりが主体的に学ぶ力を育成する。

➤ 基礎基本の学力を身につけ、定着させるために

一人ひとりの課題を把握し、朝学習や放課後学習などの補充学習や、タブレットドリルの活用等、基礎・基本の学力をつけるための取組をさらに充実させる。

➤ 家庭学習の推進・工夫

自ら学ぶ習慣をつけるために、教育委員会と連携して家庭学習を推進する。また、タブレットを活用した家庭学習の課題などを工夫していく。

調査結果の分析を受けての教育委員会の今後の方針

令和3年度の小中学校の調査結果については、各考察のとおり、いくつかの課題がみられ、全体として改善されているとは言い難い。また、これらの課題は、各学校によっても異なっているため、それらを克服するためのきめ細かな分析や対応が必要となる。

また、各種施策も時間をかけて継続的に取り組んでいくことが重要である。

その上で、これまで行ってきた施策だけでは十分とは言い難く、追加的な取組が必要となっている。

なかでも、生徒指導の課題も含め、各児童生徒の個に応じたきめ細かな指導が必要であるため、子どもに向き合う時間の確保がより重要度を増していると考えられる。

したがって、ICTの活用を含めた業務の効率化を更に推進するとともに、教職員の負担軽減のために校務支援等を行うサポーター等の投入を、国・府の財政的支援も活用しながら、全市的に行う必要がある。

また、経年分析ができる民間テストについても、他市同様に実施し、指導にいかしていきたい。

さらに、教育委員会の指導体制については、事業の増加や教育相談の増加等に対応すべく強化が必要である。

なお、これらの施策は、緊急度が高いものと思料する。

